（様式1）　　平成　28　年度

1　自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2873400598		
法人名	社会福祉法人　正寿会		
事業所名	グループホームひまわり荘		
所在地	兵庫県神崎郡市川町下牛尾2537-1		
自己評価作成日	平成29年1月13日	評価結果市町村受理日	平成29年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2873400598-00

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　姫路市介護サービス第三者評価機構
所在地	姫路市安田四丁目1番地　　姫路市役所　北別館内
訪問調査日	平成29年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれた中で季節を肌で感じてもらいながらゆったりと過ごして頂いています。
春に芽吹く山菜を天ぷらにして食べていただく、秋には裏山へ栗拾いや柿取りに散策したりと元気だった頃の生活をなるべくとり入れています。
又利用者の入れ替わりにより活動範囲が広がり近隣へのドライブやお花見・紅葉狩り・ランチ・運動会・もちつき・学習発表会への参加で地域との交流に力を入れています。併設の特養やデイサービスとの交流にも力を入れています。
高台の風通しの良い場所で冷暖房になるべく頼らず、皆さんとても元気に生活しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は高台の立地にあり、不便さもあるが自然環境に恵まれ利用者にとって落ち着ける生活環境である。木調建物の造りや内装などにも配慮が見られる。敷地内には同法人の特別養護老人ホーム等も併設され、地域の福祉拠点として信頼感がある。運営面でも隣接福崎町にも同法人の事業所があり、人事交流・行事・協力体制等で連携した取り組みがされている。地域の自治会・学校・ボランティアなどとの交流にも力を入れている。隣接の地域交流ホームでの行事等で利用者と地域住民との交流機会もある。食事は3食とも事業所で職員と利用者が協働で調理し、特に野菜を多く取り入れ、季節ごとに裏山で採れた山菜なども献立に取り入れ楽しんでもらう。目標達成計画でも進捗が見られるが、さらなる取組や工夫にも努めてほしい。開設15年目を迎え利用者の平均介護率も低くなりつつあるが、今後の高齢化や重度化・終末期を見据え、新たな目標達成計画への取り組みにも期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人間の尊厳を守る介護の実践を法人職員一同で理念の共有を図っている。 グループホームでの具体的、例えば個々のこだわりを大切にすることを取り組みに活かしている職員会議や勉強会に積極的に参加、日々の介護の質向上に取り組む。	法人の理念・方針が明文化され、玄関にも掲示されており、利用者・家族や職員に周知されている。地域密着型サービスの意義や役割を示された理念・方針を、事業所が独自で作り上げるまでには至っていない。	母体組織の理念そのままではなく、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援する為に、何が大切なことか、日常のサービス提供する中で、常に立ち戻る原点を職員全体で話し合い、実践テーマ等の言語化する取り組みが望まれる
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内へのドライブ、買い物に度々出かけることで慣れ親しんだ風景を楽しむ。秋祭りでは屋台を囲み記念写真をパチリ。 保育園児は七夕会、小学生は運動会・もちつき・学習発表会への招待、中学生は定期的にボランティア活動での訪問と歌・踊り等、積極的に交流を持ち楽しいひとときを過ごしています。	自治会に加入しており、地域の餅つき会では利用者と共に捏ねるなどし、草刈り等地域活動に職員が参加している。年末には、地域の方々がしめ縄や門松を作り設置してもらっている。小学校や保育園の行事に招待され、中学生のボランテイアが数名定期に訪問してくれるなど、事業所全体で地域との交流関係を築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には外出時ボランティアの依頼をしたり、地域へ出向いたりして関わりを持ってもらっている。 また、敬老お祝い会では地域のお年寄りを招待し法人全体で催し物を考えて楽しいひとときを過ごす。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族を含め出来るだけ外部の方に参加して頂く。今年度は地域の方にも出席していただくことができました。 民生委員からは日頃、村の高齢者で困っていることなどを聞き介護に関する助言なども伝えています。	運営推進会議では、家族、民生委員、婦人会役員、市町の担当者、法人関係者、事業所職員そして、利用者の自由参加で行われている。出席者のアドバイスをサービスに活かしている。今後は会議のテーマを多種に設定し、出席者を多くするなどの取り組みに努めてほしい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町が進める社会福祉関係の策定委員会に年4回出席している。 運営推進会議には必ず出席して頂き、介護保険や災害時の取り組みについて情報を共有します。	運営推進会議に出席いただいており、介護保険法についてや、災害時について話していただき、困難事例や、入居者の住所特例等について相談したり、成年後見制度について教えてもらうなど日頃から協力関係を築くように取り組まれている。	

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間玄関のドアや窓に鍵をかけているがそれ以外は開放しています。利用者が外に出られる時などは付き添ったりしている。 QOL向上委員会や職員会議での研修を行い身体拘束をしない取り組みを実施しています。	日中は玄関や窓は鍵をかけず、利用者が外に出られるときには付き添うように支援されている。法人のQOL向上委員会で身体拘束をしないケアの実践について研修し、参加した職員から職員会議で伝達研修がなされている。家族の同意を得て夜間帯にセンサーマットを使用されている利用者がいるため、記録や介護計画の充実が望まれる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	QOL向上委員会で取り上げ話したことをグループホームに持ち帰り再度話し共有する。職員会議ではQOL向上委員が担当になったり研修してきたことを発表、又はグループ討議をする。 毎回のミーティングの中で、その都度利用者の立場を置き換えて最も良い方法を考え対応する。	虐待防止については、法人のQOL向上委員会で事例を取り上げ、事業所に持ち帰りグループ討議を行い、その都度、利用者の立場に置き換えて、よい方法を考えて虐待防止に努めている。外部の講師による職員のストレス軽減する取り組み予定がある。さらに職員のストレスが、利用者のケアに影響していないかをチェックし、確認することが必要と思われる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、成年後見登記のパンフレットを玄関の受け付けの場所に誰でも手にとって読めるよう置いています。また会議で常時勉強をする。	成年後見制度を活用されている利用者がおられ、成年後見制度や成年後見登記についてのパンフレットを玄関にも設置し、職員間で学ぶ機会を持っている。権利擁護に関する制度について、さらに職員一人一人が理解できるように継続した周知の取り組みに努めてほしい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は3人の方が新しく入所されました。入所に際しては入所前の見学で納得していただき時間をかけて書面を通し説明し契約に至る。 重度化や終末期の対応についても説明し「事前確認書」で同意を得ている。	契約に関しては、まず必ず見学していただき、サービス内容や、毎日の生活、行事、部屋などを見ていただくなど、丁寧に説明し、その後入居が決定した時点で契約を締結している。重要事項説明書を用いて、利用者や家族の不安をなくし、納得してもらえるように配慮している。重度化や終末期の対応についても、利用者、家族の同意を得て書面で確認している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から月1回の寄り合いの際、意見や希望を聞き対応に努めている。家族の方とは面会時に様子を伝えながら思いを伺う。年1回法人全体と事業所で1回家族会議を開き意見があれば運営に反映させるようにしている。	利用者の希望把握は月1回行われる『寄り合い』の時に、意見を聞く機会として行われ、家族の意見は面会に来られた時や、電話などで生活ぶりを伝える際に伺うようにしているが、個別の要望や意見はなるべく会って、話し合いを深めていくように努めている。	

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや連絡ノートから職員との意見交換をする。施設長が希望時や年1回面接を行い話を聞く。思いや意見から運営に反映できるようにしている。	毎日行われるミーテイングで職員の意見や提案を汲み取り、管理者はその意見や提案を法人の部署連絡会議にあげ、運営に反映させている。また随時、個別で職員の意見を聞くなど管理者が現場の声に耳を傾け、サービスの質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に自身を持って働ける様、年2回自己評価を行い、本人の努力や実績に対し評価を行っている。資格取得、研修参加を奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会を実施しており、外部研修にも参加している。職員会議の中で研修報告を聞きグループ討議を行い勉強をする。グループホーム独自の勉強会を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人職員と交流をもち、お互い意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 又、研修を通じて他施設の職員との意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞き取り調査を行い、困っていること・希望すること・入所に至るまでの経緯・生活歴などを聞いている。初期は特に会話を多く持ち、潜在的な本音が聞ける様努力している。		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に聞き取り調査を行い、困っていること・希望すること・入所に至るまでの経緯・生活歴などを聞いている。初期は特に会話を多く持ち、潜在的な本音が聞ける様努力している。 又、面会を出来るだけ多くしていただきグループホームでの様子を知っていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と相談し、対応を決める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理方法を教えてもらったり、利用者の得意とされることを引き出して手伝ってもらっている。 季節ごとの行事やしきたりを教えてもらいながら一緒にする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と話しをするよう心がけています。 日々の生活の様子をエピソードをまじえながら少しでも安心してもらえるよう努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ村や、家の近所の方など面会に来られる方も多いです。お部屋でゆっくり過ごしてもらっている。外出時には馴染みのところに出かけたり住み慣れた家の近所までドライブしたりする。	近所の方や友人の面会があり、併設事業所に来られている方との交流など、馴染みの人との関係の継続支援に努めている。ドライブで自宅近くや通われた学校の近くへ行っている。選挙の時は役場へ出向くなどの支援が行われている。墓参りや法事など、家族の協力を得て付き合いが続けられるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が困っていることに対し、他の利用者が助けようとされることがあります。又、利用者が孤立したり喧嘩等される場合は職員が間に入り橋渡しをします。		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も引受人に連絡をし、様子を伺い迷惑にならないよう配慮しながら本人の様子を見にも行きます。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望される暮らしの思いを聞き、実現が少しでも出来るよう取り組んでいる。関わりの中で様子を見たりコミュニケーションをとり思いを汲み取れるようにしている。	『私の気持ちシート』を活用し、一人一人の思いや意向の把握に努めている。把握が不確かな方には親身になって観察し、職員間で情報共有し、ご本人の視点に立って考え、日々の支援につなげている。ご飯を食べない方が、声掛けの工夫と役に立ってることを感じてもらえる役割提供をする事により、食事してもらえるようになった事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に話を聞いたり本人からも話を聞き記録に残す。又他のサービスを利用していた場合は情報収集に努めて把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や過ごし方を個別日誌に記録し、引継時に話し合い、職員全員で情報共有している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを一番に受け止めて出来るだけ望む暮らしが実現するよう対応に努める。変化が見られたらその都度計画を見直し家族、本人に意見を聞いたり様子の中から思いを汲み取り作成し同意を得ている。	月に1回カンファレンスを行い、一人ひとりのモニタリングと評価が行われている。介護計画は、介護認定の更新時に行われ、変化があった場合には随時の見直しを行い、利用者・家族の意見や関係職員の意見を反映した介護計画を作成している。入所時のアセスメントを自宅で行い、今までの暮らしぶりや生活を計画に活かし、モニタリングの書式を整備をすることで、さらに現状に即した介護計画作成に努めてほしい。	

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を毎日記録し、医療的なことは赤色で記録、見やすい工夫をしている。生活そのものがリハビリ・ケアプランの実践ととらえている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時では空き部屋があるときは、ショート利用者を受け入れている。外出時には、家族を誘って一緒に外出したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや学校等の交流で色々な行事を行っている。地域の運動会や村祭りなどは誘いがあり、出かけている。秋祭りには地域の屋台があがってきて地域の方と利用者が楽しいひとときを過ごしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科・歯科の協力医療機関がある。2週間に1回の往診と緊急時の往診が受けられる。特養の看護師にもいつでも相談できる。	かかりつけ医への受診は少なくなっているが、協力医への変更については本人や家族の希望を優先し、馴染みの医療継続に配慮している。家族の都合で通院介助を事業所で行うこともある。歯科の往診など適切な医療を受けられるよう支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師や協力医療機関の看護師に相談し、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き病院関係者と情報交換を行うなど医療機関と連絡をとっている。	利用者が入院される場合には、協力医等の紹介状を提出し、入院中は2週間に1度程度お見舞いに伺って、病院関係者と情報交換を行い、退院時についての受け入れについて検討されている。必要なものを届けたり、退院カンファレンスに家族とともに参加することもある。	

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する対応方針として契約時に看取りについての事前確認をとっている。状態変化があれば、かかりつけ医や家族に相談し、常に情報を共有して方針を決める。	入居時に、『事前確認書』として緊急時の医療処置について、また重度化した場合や、終末期についての希望などを書面において確認をとっている。希望があれば看取りを行う方向性であることは伺えた。以前に看取りの事例もある。	重度化した場合や終末期の支援について事業所の対応を、法人関係者や職員全体で話し合い、どこまでの支援ができるかを明文化し、本人や家族の意向を汲み取り、医療体制を整えながら、看取り研修の充実と方針の統一を図る取り組みが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、見やすいところに貼っている。吸引器の使い方をマスターしている。定期的に勉強会を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練・夜間想定避難訓練・土砂災害避難訓練・消火器訓練を行っている。	火災避難訓練を年に2回、法人全体で連絡網訓練、土砂災害を想定した避難訓練などが行われている。火災以外の災害を想定したシュミレーションを行い、日頃より、地域住民、警察、消防署等の連携を図りながら、地域との協力体制を築いてほしい。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議・グループホームの会議で話し合いをし、指示語や利用者の誇りを傷つけないよう言葉かけに努める。個人記録については鍵のかかる場所に保管している。	一人ひとりの部屋に玄関があり、部屋の中やトイレなどが廊下から見えないよう、プライバシーに配慮された造りになっている。言葉使いは丁寧に尊厳をもって接し、トイレへの声掛けは、小さな声で傍に寄ってささやくなど気を配っている。さらにマニュアルを整備し研修の充実に努めてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者が主体であり、なんでも話し合える雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間はおおむね決まっているが、それ以外は自由に過ごしてもらっている。		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望をききながら服選びをする。気温に合せた服装を考える。理美容は月１回、美容師に来てもらい、好みの髪型にしている。自分で整えることが出来ない方には毎日起きがけに髪を整える。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月１回の寄り合いで希望のメニューを献立に取り入れている。 旬の食材や裏山で採れた山菜を調理したり、盛り付け、片付けなど出来る事を手伝ってもらっている。季節感を取り入れた献立ても多いです。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや希望を月１回の寄り合い（利用者との話し合い）で聞き献立に取り入れている。利用者のできることを調理から片付けまで職員と一緒に行い、食事も共に楽しんでいる。おやつ作りなども週２～３回行っている。食材には季節の野菜を多く取り入れ、裏山で採れた山菜なども献立に取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の献立をベースにしているが野菜料理が中心。又、手作りおやつに力を入れています。10時に自分の好みの飲み物、15時におやつとお茶をすすめいてる。いつでも飲めるようにホールにお茶を置いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、うがいや歯みがきの声かけを徹底して行っている。義歯は夕食後に預かり洗い流しを確認。ポリデントに浸け、翌朝手渡している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自のサイクルを把握し、トイレ誘導を行っている。個人に合った下着・パットを使いわけている。朝食時には5～6種類の野菜を入れた味噌汁を作り提供することで自然排便をうながしています。	利用者の排泄パターンや習慣等をアセスメント、日々のケアで把握して、排泄チェック表でトイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている。下着は紙パンツ1名・布パンツにパット使用者が1名、布パンツで自立できている人もいる。一人ひとりが行きたい時にお連れする、（10分後でも15分後でも）夜間のポータブルの利用者も1名いる。	

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れている。毎朝牛乳を飲んでもらったり、果物を提供している。排便困難な方には腹部マッサージや全員で行う1日2回以上のリハビリ体操をしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体の清潔が保てるように体調や希望にあわせて1人ずつゆっくり入浴をする。土日には沐浴剤を入れたり、季節に合わせゆず風呂や菖蒲湯を提供している。	入浴は2カ所ある個浴を交互に利用し、週3～4回午後2～4時までの利用となっているが、体調や希望で柔軟に対応している。入浴を楽しめるように、週末には沐浴剤を入れたり季節湯も行っている。プライバシー配慮では同性介助を基本に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせて休憩をとる。不眠傾向の利用者には外気浴をすすめ、安心して休んでもらえるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りに服薬、薬情を見て副作用の確認をする。薬が変更や追加になった時は引き継ぎを行い、状態変化がないか気をつけ主治医に報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた介助・家事・歌や行事等を行う。 個々の得意分野を見極めて張り合いや喜びを感じてもらう。月1回、利用者の要望・意見を話し合える場（寄り合い）を設けている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所内にある裏山に山菜をとりに行ったり、つくしを採りに行ったり、秋には栗拾い、柿とりなど楽しみながら散策をする。天気の良い日には玄関前にテーブルを出してランチやお茶を楽しむ。本人の希望にそった場所へ外出したりしている。	日常的な外出は裏山などへの散歩が多いが、事業所が高台にあるため送迎の支援が必要である。自然環境に恵まれお花見、山菜・つくし採りや柿とり栗拾いも楽しめ、食事の献立にも取り入れられる。外気や自然の景色を楽しみ玄関前でランチやお茶もする。月１回程度の外出計画もあり、本人の希望にも配慮している。家族の支援で外出される人もいる。	

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所預かりではあるが、外出時には好みのものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が遠のいていたり、体調変化、相談事などは常に電話で連絡している。その時には家族の意向も聞くようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にはなるべく物を置かないよう広々とした空間の中で自由にしてもらう。テーブルや玄関・壁・居室の入り口には利用者と一緒に作った作品や本人が作った作品を飾り、花を飾るなど努める。	山荘風の吹き抜けのある高い天井、木調の広々としたホール（居間・台所・食堂）には畳のスペースやソファー、暖炉（薪ストーブ）も設えて、居心地よく過ごせるように工夫されている。窓も広く、外の景色は自然が広がり季節感に癒される。随所に手作り作品や行事・外出での写真等も展示されてる。台所での食事の準備等も身近に感じられ生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置は状況に合わせ移動している。廊下にソファを置いたりしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品・個々に合った装飾品が持ち込まれ、家族の写真を飾り、心地良い空間作りをしている。	ホールの左右に配置された居住スペースには、各々トイレ（男女）や浴室もある。居室は4タイプあり希望で選択されている。各居室の入り口は玄関もありプライバシーにも配慮した造りとなっている。、バルコニーからは自然が見渡せ、避難口としても配慮されている。使い慣れた家具や生活用品・装飾品・家族の写真等を飾り、心地良い居室づくりに工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自分の力で「できる」ことが沢山増えるよう物の置く位置をかえたり、トイレの場所がわかるよう、その時の利用者に合わせて対応する。		